

全文構造解説

この冊子の使い方

1つの文について、【英文】 → 【構造】 → 【解説】 → 【語句】 の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼^{そじく}して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後にもう一度、できれば二度三度、本文英文を、できるだけ速く、頭から意味をとりながら読むこと。

凡例および注意点

凡例：

■ = 段落番号 ① = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部） 動 = 動詞（句） 目 = 目的語（句・節） 補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節） 関代 = 関係代名詞 過分 = 過去分詞 など

「 」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[] / { } / [[]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

*1 = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文（句や節を含む）。暗唱できるようになることを強くお勧めする

() = 省略可、あるいは補足・別表現

[] = 直前の語句との入れ換え可

< > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[|] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語 など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

全文構造解説

凡例： **主**主語、**目**目的語、**接**接続詞、**補・形**補語となる形容詞、**副**副詞（句・節） など

英文の構造について

英文の構造は、**文の要素**と**副詞**で説明できる。文の要素とは、**主語** (S)、**述語動詞** (V)、**目的語** (O)、**補語** (C) のことで、これらの意味のまとまりを正しい順序で並べることで「文法的に正しく、意味の通る」文が成立する。文の要素が欠けたり、順序が正しくなかったりすると、このような英文は成立しない（だから、文の要素と呼ぶのである）。他方、副詞は文の要素ではなく、なくても文法的に正しい文が成立し、置く位置（順序）も比較的自由である。もちろん、文の要素でなくても、副詞も重要である。例えば、副詞 not がないと英文の意味はまったく逆になってしまう。

主語とは、日本語の「～は、～が」にあたる、文の主体となる名詞の意味のまとまりのこと。述語動詞とは、日本語の「～する、～である」にあたる、主語の動作や存在を表す意味のまとまりのこと。目的語とは、日本語の「～を、～に」にあたる、主語の動作の目標（目的）となる、主語とは異なる名詞の意味のまとまりのこと。補語とは、主語や目的語の内容を補う、名詞あるいは形容詞の意味のまとまりのこと。内容的に〈主語＝補語〉あるいは〈目的語＝補語〉が成立する。

文の要素と副詞は、文構造の「役割」としての品詞に分類できる。つまり、主語と目的語は必ず**名詞**、述語動詞は**動詞**、補語は**名詞**あるいは**形容詞**である。これに**副詞**を加えた4つの品詞は、**（単）語**のほかに、複数の語からなる意味のまとまりである**〈句〉**や**〈節〉**の形をとることもある。

これら4つの品詞の性質についてまとめると、名詞は「人、もの、こと」を表し、動詞は名詞の動作や存在を表し、形容詞は必ず**名詞**を形容（修飾）し、副詞は名詞以外のあらゆるものを修飾する。

句と節についてまとめると、節とは〈主語＋動詞 (SV)〉構造を中心とする1つの意味のまとまりのことで、句とはSV構造を中心としない1つの意味のまとまりのこと。まず節は、文の中心となる**〈主節〉**と、主節に従う**〈従属節〉**に大別できる。従属節はふつう**接続詞**に導かれて、**名詞節**や**副詞節**になる。次に句は、複数の語で1つの名詞の意味となる**名詞句**、同じく1つの動詞の意味となる**句動詞**（*動詞句とはいわない）、同じく**形容詞句**、**副詞句**となる。

上記の内容は英文法の構造に関わる原則であり、例えば関係詞やto不定詞、間接疑問といった個別の文法項目は、本来、この構造の中で説明されるものである。そして、原則とは、意識する必要がなくなるくらいまで、繰り返しの訓練によって徹底的に身につけるべきものである。

本冊子は、この原則が具体的に確認できることを目的に作られた。すべての文について、文の要素と副詞を「意味のまとまり」で切り分け、それぞれがどのような形（名詞句・節や副詞句・節など）になっているのか、その構造が確認できるようになっている。容易に理解できる文もあればそうではない文もあるだろうが、最初のうちは共通する文構造を意識し、繰り返しの訓練によって身につけてほしい。やがてこれを意識下に追いやることができれば、英語力の土台は十分にできあがっているはずである。

第1問A Q. 1～Q. 3

第1問A Q. 4
第1問B Q. 5～Q. 7
第2問 Q. 8

第1問A

Question No. 1

① M: There weren’t very many people on the bus, so I sat down.

構造 **副**^{*1}**There** **動**weren’t **主**very many people **副**^{*2}**on the bus,** 「バスの中にあまり多くの人はいなかった」 **副**so **主**I **動**sat down. 「だから私は座った」

*1：〈There is/are 構文〉は、動詞の後に主語がくる倒置文で、主語の存在を初めて述べるときに使う。ここでは主語はvery many peopleで、その場所を副詞句on the busが修飾していると考ええる。なお、〈前置詞＋名詞〉は原則、副詞句と考えるとよい。また、このときの名詞を〈前置詞の目的語〉という。

*2：前置詞on ～は「～の上に」の意味で覚えているかもしれないが、ここは当然、バスの天井に乗っているわけではない。原則は「上」に限らず、〈接触〉のイメージで覚えるとよい。on the wallで「壁に掛かって」の意味。ここでは「(バスに) 乗って」の意味だが、バスや電車など比較的大きな乗り物に乗るときにはonを、タクシーなど体をかがめて狭いところに乗るときにはinを使うことが多い。

Question No. 2

① M: Susan, I left my phone at home.

構造 **間**^{*1}**Susan,** **主**I **動**left **目**^{*2}**my phone** **副**at home. 「私は家に自分の電話を置いてきてしまった」

*1：Susanは人名を表す名詞だが、ここでは呼びかけのことばとして〈間投詞〉とした。

*2：動詞の動作目標（目的）となる語を目的語という。目的語をとる動詞を〈他動詞〉、目的語をとらない、あるいは目的語をとるために前置詞を要する動詞を〈自動詞〉という。なお、leaveは自動詞では「去る」だが、他動詞では「(～を) 残す、置いてくる、忘れてくる」などの意味になる。共通するイメージを意識しよう。

② Wait here.

構造 **動**^{*1}**Wait** **副**here. 「ここで待っていて」

*1：動詞の原形から始める〈命令文〉で、主語Youが省略されていると考える。基本的に高圧的な表現で失礼になることも多いが、友人同士や好ましい内容の場合には問題なく使われる。**暗例**Have a nice day. 「よい一日をお過ごしください。」

③ I’ll be back.

構造 **主****動**I’ll be **副**back. 「私は戻ってくる」

Question No. 3

① M: I didn’t lose my map of London.

構造 **主**I **動**didn’t lose **目**my map of London. 「私は自分のロンドンの地図をなくさなかった」

語句 lose [lú:z | ルーズ] **動**「失う」

② I’ve just found it in my suitcase.

構造 **主****動**^{*1}I’ve just found **目**it **副**in my suitcase. 「私はちょうど、自分のスーツケースの中にそれを見つけたところだ」

*1：〈have＋過去分詞〉の現在完了形は、「過去が影響を与える現在」を表し、完了、継続、経験などの意味になる。意味ごとによく使われる副詞があり、本文のjust「ちょうど」も完了を表すときによく

く使われる。**暗例**Have you ever been abroad? 「あなたは海外に行ったことがありますか。」（※経験を表す現在完了で、副詞everを伴うことが多い）

Question No. 4

① M: Claire usually meets Thomas for lunch on Fridays, but she’s too busy this week.

構造 **主**Claire **副**usually **動**meets **目**Thomas **副**for lunch **副**on Fridays, 「クレアはふだん、毎週金曜日に、昼食のためにトマスと会う」 **接**^{*1}**but** **主****動**she’s **補・形**^{*2}**too busy** **副**this week. 「しかし、今週、彼女は(会うには) 忙しすぎる」

*1：例えば名詞と名詞、節と節などを対等につなぐ、andやbut、orなどを〈等位接続詞〉という。この文では、Claireから始まる節とsheから始まる節を、逆接するbut「しかし」が等位接続している。このような、対等の節からなる文を〈重文〉という。

*2：厳密には、too「～すぎる」は続く形容詞busyを修飾する副詞だが、この2語で1つの形容詞の意味のまとまり（形容詞句）と考える。なお、動詞に続く名詞あるいは形容詞が内容的に主語とイコールになるとき、この名詞あるいは形容詞を「主語の内容を補う」という意味で〈主格補語〉という。ここでは、she = too busyであるということ。be動詞は主格補語をとる代表的な動詞である。

第1問B

Question No. 5

① M: Kathy ate two pieces, and Jon ate everything else.

構造 **主**Kathy **動**ate **目**two pieces, 「キャシーは2つ食べた」 **接**and **主**Jon **動**ate **目**everything else. 「そしてジョンはほかのすべてを食べた」

語句 piece [pi:s | ピース] **名**「かけら、切片」、else [éls | エウス] **形**「ほかの」(some-, any-, no- などから始まる語を後ろから修飾する) **暗例**Anything else? 「ほかに何か(ありますか)？」（※I (エル) の音は、声帯を震わせ、舌先を口腔内上の歯と歯ぐきの間の部分にあて、その両脇から[ウー] という音を出し、舌が離れるときに聞こえる[ラ] 行の音。その速度や前後の音によっては[ウ] の音に聞こえることもある。例えばmilkは[メック] のように聞こえることが多い。

② So, nothing’s left.

構造 **副**So, **主****動**^{*1}nothing’s left. 「だから、1つも残っていない」

*1：会話では短縮形が多く使われる。ここはnothing is left「1つも残されていない」という〈受動態〉のかたち。受動態とは、能動態の文の目的語を主語に変換したもの。この文を能動態にすると、we left nothing「私たちは何も残さなかった」となる（文脈上、過去形にした）。

Question No. 6

① M: Look at that bird on the lake.

構造 **動**^{*1}Look at **目**that bird **副**on the lake. 「湖上のあの鳥を見て」

*1：look atは、この2語で「見る、調べる」の意味の〈句動詞〉（*動詞句とはいわない）と考えるのが実用的。目的語that birdをとっているので、他動詞の扱いとなる。

② It’s under the tree.

構造 **主****動**^{*1}It’s **副**under the tree. 「それは木の下にいる」

*1：be動詞は原則として「存在する（～で在る）」の意味でとらえるるとよい。

Question No. 7

① M: I prefer this one.

構造 **主**I **動**prefer **目**^{*1}this one. 「私はこちらの方が好きだ」

*1：このoneを〈不定代名詞〉といい、同種のもの1つを指す。そのものを指すitとの違いに注意すること。**暗例**I left my phone on the train. I need to find it./I need to buy new one. 「電車に携帯を忘れてしまった。それを見つけないでは。/新しいものを買わなくては。」

語句 prefer O to ～ 「～よりもOの方を好む」（※この文ではto以降が省略されていると考える）

② There’s no belt, and it’s longer.

構造 **副****動**There’s **主**no belt, 「ベルトがなく」 **接**and **主****動**it’s **補・形**longer. 「そして、それはより長い」

第2問

Question No. 8

① W: Oh, I forgot.

構造 **間**Oh, **主**I **動**forgot. 「ああ、忘れてしまった」

② Where should these towels go?

構造 **副**Where **動**[should **主**these towels go]? 「これらのタオルはどこに行くべきか」

語句 go 「収納される（※「行く」のイメージを膨らませればわかる）]、towel [táuel | タウアウ] **名**「タオル」

③ M: In the basket on the bottom shelf.

構造 **副**In the basket 「かごの中」 **副**on the bottom shelf.

「いちばん下の棚の」

語句 bottom [bótəm | ボトム] **名**「底」、shelf [félf | シェルフ] **名**「棚」

④ W: The one beside the bottles?

構造 ^{*1}**The one** **副**beside the bottles? 「瓶の横のかご？」

*1：動詞がないので、厳密には文ではない。The oneはthe basketを表し、その場所が副詞句で表されている。例えば、Do you mean the one beside the bottles? 「あなたが意味しているのは瓶の横のかごですか。」という文を省略したかたちと考える。感覚的にわかるだろう。

⑤ M: No, the other one.

構造 **副**No, 「いいえ」 ^{*1}**the other one.** 「もう1つの方」

*1：the otherは「(2つのうち) もう一方のもの」を表す。定冠詞theは限定された（絞り込まれた）名詞に使われる。2つのうち1つ